

平成 30 年度
第 3 回
入 学 試 験 問 題

試 験 Ⅱ

10 : 10 ~ 11 : 00

注 意

- 1 この問題用紙は、試験開始の合図で開くこと。
- 2 解答用紙は2枚あります。それぞれに受験番号・氏名を記入すること。
- 3 答えはすべて解答用紙に記入すること。
- 4 印刷がわからない場合は申し出ること。
- 5 試験終了の合図でやめること。
- 6 問題は各自持ち帰ること。

品川女子学院中等部

平成三十年度 中等部入学試験問題 第二回 (試験Ⅱ)

◆答えはすべて解答用紙に書くこと

もうすぐ中学生になる小学生へむけて書かれた次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(元の文章では空欄 X の部分に、中学生生活を終えたヒオリさんが書いた文章があります。そこには紙パックジュースや夏服のポロシャツ、体育館の開放を例に、「自由とそれにとまなう責任」について書かれています)

・鉄人28号ではなく、鉄腕アトムを目指して！

「あなたが目指すのは鉄人28号ですか？ それとも鉄腕アトムですか？」

私は新生に出会うといつもこう問いかけ、「鉄腕アトムみたいになろう」と呼びかけています。「鉄腕アトムを目指せてどういうこと？」「ロボットになる気なんてありません」って思った人、ごめんさい。ロボットになれってことじゃないんです。昔々、「鉄腕アトム」と「鉄人28号」という大人気のロボットマンガがありました。もちろん少年であつた私もこのマンガに夢中になっていました。どちらもとても強いヒーローロボットなのですが、大きな違いがあります。それは鉄人28号が人間の操作するリモコンで動くのに対して、鉄腕アトムは自分で考えて動き、喜んだり悲しんだりという感情も恐怖心もある人間のようなロボットだということです。「鉄人28号」はリモコンを持つ人によって正義の味方にも悪魔の手先にもなります。それは自分の意志を持たず誰かの言うとおりに動くロボットだからです。反対に鉄腕アトムは自分で考えて行動しますから、悪魔の手先にはなりません。

小学校時代のうちに、もう鉄腕アトムレベルになったという人もいるかもしれませんがね。でも「次何をするの？」「できないからやって」なんて誰かに言っただけじゃありませんか？

自分がどうしたらいいか自分で考えることをせずに、誰かの指示を待つて動いてばかりいる人は、まだまだ鉄腕アトムレベルとは言えません。それから、何かいけないことをしたり失敗したりして親や先生から「どうしてこんなことしたんだ！」と叱られたとき、「だつて〇〇がやるうつて言つたんだもん」なんて言い訳をしている人も鉄腕アトムのレベルとは言えません。小学生までならそれも許されるかもしれませんが、でも、中学生になつたら大人へと近づくもう一歩次の段階に入ります。ですから自分で考えて、先を見通しながら行動する力をぜひつけていきたいものです。そういう力をつけられるような自分を目指す中学三年間にしてほしい、私はそう思っています。

中学生になつたユウマ君は、授業中に立ち歩いたり大声でおしゃべりしたりして、よくいろいろな先生から注意されています。あるとき、注意した先生にこんなことを言っていました。

「人間は自由なんだからボクは何をしてもいいんだ！」

このユウマ君の言葉、あなたはどう思いますか。彼はどうしてこんなことを言つたのでしょうか。ユウマ君のご両親は小学校の卒業式の日、彼にこんな話をしていました。

「これからはユウマも中学生。親にいちいち聞いてばかりいないで自分で考えて行動しなくちゃね」

これまで親や先生から「〇〇しなさい」「〇〇してはいけません」と細かく言われ続けてきたユウマ君。この言葉を聞いて「これからは何でも思いのままだ」と誤解したのでしょうか。理由はどうあれ、自分の「やりたい」放題がまじめに授業を聞きたいと思つている人の「やりたい」を邪魔してしまつていたのでした。彼の行動は学級会で問題とされ、「自由」の意味について考えるきっかけになりました。この話し合いをおして自分のしたことの意味を理解した彼は、しつかり反省し「ごめんなさい」とみんなに謝ることができました。

こんなこともありました。カイト君は、朝出かけるときにお母さんから「今日は雨が降るから傘を持っていきなさい」と言われたので、傘を持って登校しました。でも結局雨は降りませんでした。ですからせっかく持つていった傘もそのまま持ち帰ることになってしまいました。しかも運悪く、その日は学校から持つて帰らなければならぬものが多かったので、傘はとても邪魔でした。大変な思いをしてやつと家にたどり着いたのでした。そのときカイト君は、お母さんにこう思いをぶつ

けました。「まったくもう、お母さんが傘を持っていけなんて言うからいけないんだよ。こんなに大変なことになっちゃったのはお母さんのせいだ!」。こんな経験はありませんか。

小さいときには親や大人がいつもそばにいて、すべきことやしてはいけないことについて指示を出し、子どもはその通りにしていればだいたいうまくいっていたし、もしそれで困ったことがあればいつも誰かが助けてくれました。うまいかなかった不満は指示を出している人にぶつければよかったです。誰かの指示で動いていたとき、失敗はその誰かのせいにすることができました。でも、自分で決めた行動の場合は誰のせいにもできません。結果はすべて自分が引き受けなければなりません。ですから「自分で決めていいよ」って言われたとき、「自由って結構大変」っていう感想を持った中学生もいます。

実は「自由」と言ってもいくつかの意味があります。一つはよりよい「今」を求める自由、自分を縛っている不自由さから解放されることです。これを「くからの自由」と呼ぶことにしましょう。もう一つはよりよい「未来」に向かう自由です。自分の願いや自分で考え決めたことに従って歩いていく自由です。私はこれを「くへの自由」と呼んでいます。自由には、「くからの自由(今)」と「くへの自由(未来)」があるのです。さっきのユウマ君の「何をしてもいいんだ!」という言葉は「くからの自由」を主張したのですね。

ちよつと次のヒオリさんの作文を読んでみてください。

X…ヒオリさんの文章

どうですか、自由という言葉にも結構深い意味があるでしょう。もうちよつと詳しく話しましょう。

ヒオリさんたちが入学する前、その中学校の先輩たちは学校生活をもっとよくしたいと考え、それまで認められていなかった紙パックジュースを持ってきて飲むこと、夏服にポロシャツを着用すること、昼休みに体育館で遊べるようにすることなどを認めてもらおうと、生徒の声を集めて学校に働きかけて実現してきました。これらは生徒会活動として取り組まれましたが、自由を求めるだけでなく、紙パックのゴミ処理や体育館の後片付けなど「責任」の部分についてもしっかりと話し合いみんなで守り合うことを決めました。ヒオリさんたちは先輩たちが挑戦した「自由拡大」の取り組みを引き継いで発展させようとしたのです。しかし、このときの生徒の中に、入学のときにはすでに与えられていた自由を「勝手放題」と勘違いする人が出てきてしまいました。例えば、昼休み終了のチャイムが鳴っても体育館で遊び続けていたりしました。体育館使用の約束破りは次の授業にも差し障りが出ました。先生たちも注意しましたし、生徒会役員会も啓発ポスターをつくって貼ったのですがそれも破られるようになってしまいました。そこで、先生たちは「体育館の使用を禁止する」と発表したのです。

違反いはんに対する罰ではなく、「自由のために自由を制限する」という対処でした。つまり自由というのは、自分で考えて行動するアトムのような力があれば、上手に使うことで「便利」を味わえるのですが、そうでなければ自由が暴走してしまつて「不便」を生み出してしまうものです。今回の場合は、状況を見て各自が考えて行動すればすむことだったので、一部の人の勝手気ままな行動によって、「不便」がつくり出されコントロール不能な状態になったため、いったん自由を制限したということだったのです。その後、生徒が自由について考え始めたことよつて、再び体育館は使えるようになりました。

中学生時代は、まず「くからの自由（今）」を求めて大人や社会と向き合い、次に「くへの自由（未来）」に向かうために自分と向き合うようになっていくのです。なんだか難しそう、自分にできるかなつて不安に思つた人もいるかもしれませんが、でも大丈夫です。意識するかしないか、時期が早いか遅いか、どんなことがきつかけになるかなど、一人ひとりによつて違いはあつたとしても、誰でもみんな自然にそうなつて、大人へ自立に向かつて新しい自分をつくつていくようになるのです。

（『中学生になつたら』みやしたあとし宮下聡）

A large grid of 12 columns and 20 rows of dashed lines, intended for handwriting practice. The grid is bounded by solid lines on the top, bottom, and sides. The numbers 340, 300, and 200 are printed at the bottom of the grid, corresponding to the 1st, 4th, and 7th columns respectively.

340

300

200